

⑦ どうしたら命令者になれるか。

A 勿論、どう考えても「ピン」以上である「アナタ」も「私」も 命令者になれることは 前述したとおりだ。だから、だからこそ、そこに困難な、ややこしい問題がある。

B、誤解の多い言葉だが、率直に言えば「自己陶醉」におちいることだ。そして、まだまだ「おちいること」といった義務的観念がともなうことは、いたしかたあるまい。だれでも、なったばかりの君主はオモハユかったろう。だからこそ用心に用心を重ねて民衆を 圧政してきたのだ。

C. それにしても、重なりあって、積み上げられた城築をくずすことは大変だ。そこは弁証法的、あるいは複利計算的にいくべきだろう。例えばサルトル全集の中から引用して、古典マルクス主義者と戦い、帝国主義者には社会主義者の「人民としての義務」に参加する といった具合に……。そして結論的にいえば、サルトルに代表される「おちてゆくロマンス」「絶望の倫理」、などの暗い冷たさを全部ハギトルこと。

D、基底部が異なるとはいえ、神々になるのだから、現状と未来が暗いからといって、それ等の事実に影響を受ける必要はなかろう。現実のサルトル以上に、我々が暗い存在であることは確かな事実としても、それ以上、以下すらもが「神」になれる幸せな時代だから、ただただ『落ちてゆくこと』さえもが陽気に還元されねばならぬのだ。

E、ということは、スローモーションの一コマ一コマが独立して全世界を支配することが出来るのだ。

F、とにかく既成のもの、自分自身をただハイデユクことが一番の近道なんだろう。なにも誰でも神になれるので、騒いでゆく必要もないだろうが。